



[従業員への責任と行動]

ムラタで働くことは、世界で働くこと。若手が実感する、多様性のなかのムラタ、ムラタのなかの多様性。

お互いの文化的背景を尊重しながら、「技術」という共通言語でコミュニケーション。

村田製作所には、将来のグローバル人材の育成のため、若いうちに海外事業所で実務を通して学ぶプログラムがあります。私たちはこのプログラムに応募して、現在、シンガポールで研修中です。ムラタでは海外生産比率が高まっており、生産設備の海外への供給や現地調達などの仕事が増えています。設備の立ち上げ、保全、改善など、現地のスタッフとの協業は不可欠であり、この分野に自分たちの仕事のステージを広げていきたいと思ったのです。畑は、設備の保全・改善を学んでいます。現地スタッフと一っしょに、設備の一部のブロックを切り取った「モノづくり道場用トレーニングキット」をつくるなど、従業員の教育推進の手法を研究しています。中川は、設備のグローバル調達を学んでいます。現地スタッフの協力を得ながらシンガポール政府のコネクションも使いつつ、ASEAN地域の優秀でリーズナブルな設

備メーカーとコンタクトを取ろうとしています。どちらも、現地スタッフと円滑にコミュニケーションを取り、ベクトルを合わせて取り組むことが大切です。シンガポールは国際都市であり、経済成長も著しいことから、優秀な人材が多く、刺激を受けることもしばしばです。とりわけビジネス的な視点については、教わることが多いと感じています。技術の世界は万国共通というものの、仕事上のやりとりにはお互いの文化的な背景が微妙に影響します。社内の言語は主に英語ですが、シンガポールの街に一步出れば、そこは中国語の世界。この多様性のなかに身を置くことで、自分自身が外に向かって開かれていくことを実感します。ムラタで働くことは、世界で働くこと。あらためてそういう認識を深めました。シンガポールでつながりを持ったスタッフとは、研修が終わったあとも一っしょに仕事をする機会を持ちたいと思います。

写真左より  
株式会社村田製作所  
生産本部  
モノづくり技術統括部  
畑 昭範  
株式会社村田製作所  
技術・事業開発本部  
新規プロセス開発センター  
中川 雄介



Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.の現地スタッフたち

[従業員への責任と行動]

安全で快適な職場づくりを目指して安全衛生活動に取り組んでいます。

自分たちが動けば、現場は変わっていく。安全は、コミュニケーションと工夫から生まれます。

OHSAS (Occupational Health and Safety Assessment Series) は、国際コンソーシアムによって策定された労働安全衛生に関する国際規格です。この認証を得ていることを取引条件とするメーカーもあるほどで、信用の証しでもあります。もちろん、いちばん大事なのは働く人たちに安全な環境を提供することで、目指すは労災ゼロ。「監督者が意識を高めることで、作業者の意識も変わる」との工場長の熱い思いを受けて、外部認証の1年半ほど前から事務局が準備を進めてきました。安全衛生の取り組みは、細かいことの積み重ねです。合い言葉は「現場・現物・現象」。事業所のなかのどこにリスクが潜んでいるのか、現場を回り、作業者の声をまとめて、リスクアセスメント表をつくります。2011年にアセスメントを始めましたが、1年後には、普段は見えていなかった潜在的なリスクが表にどんどん出てくるようになりました。実は金津村田製作所で

は、2000年から全従業員が危険を感じたり発見した場合に、カードにその内容を記載し、改善していくKYA (危険を予知し、アクションを取る) 活動を進めてきました。この蓄積が、リスクアセスメントに取り入れられているのです。リスクアセスメント表は作業場のみんなが見えるところに掲示されていて、改善がなされるたびに更新されていきます。安全衛生委員会の集まりでも、積極的な発言が見られるようになってきました。もともとムラタはモノづくりが大好きな人の集まり。事業所の各フロアに「創作の森」と名付けられた場があって、リスクを低減したり、ムリ・ムダ・ムラをなくするための仕掛けや道具を自分たちで工夫してつくる活動も展開しています。私たち事務局も、現場の声を聴いたらすぐに動くことを心がけてきました。自分たちが動けば、職場が変わっていく。そんな意識が、従業員の間で共有されてきていることが実感できます。

写真左より  
株式会社金津村田製作所  
事務局  
北野 好美  
丸子 晋一